くらし

kurashi@okinawatimes.co.jp

暴力の根 若年から絶て

「デートDV」被害 大人と同じ

若年者のDV(ドメスティック・バイオレンス)を指す「デートDV」。DVというと大人の、夫婦の問題と思われがちだが、子どもたちにも無関係ではない。被害は大人同様深刻でも、人生経験などが乏しいために問題に気付くのが遅れたり、大人に相談できなかったりで深刻化しやすい。将来のDVをなくしていく方法の一つとして、若い世代への啓発も欠かせないと、国際ソロプチミスト沖縄（新城伸子会長）は昨年11月から半年間、デートDV防止と啓発のプロジェクトを行った。取り組みを紹介する。

（岡部ルナ）

性教育の必要性指摘

東京医保大 渡會さん 地域の力 大事に

性教育の視点からデートDVについて語った渡會睦子さん＝県立看護大学

「デートDVの根底にあるものと地域性を探る」をテーマに7日、県立看護大学で行われた講演会。東京医療保健大学講師の渡會睦子さんはその場で参加者にアンケートを取り「デートDVの根底にあるものは何か」と「県民性は何か」についてアンケートを取った。「依存心」「飲酒が多い」「パートナーの人権を認めていない」「男性優位」「テーゲー」など、両方の質問に共通する回答が多く挙がった。

渡會さんは「悪いところは何かを住民が認識して取り組んでいかないと変わらない。県民性を強みにしていくためには、自尊心を高め自分を守ること、相手も大事にしていくことが大事なのではないか」と、地域の力の大切さを述べた。

山形県で長く性教育に取り組んだ渡會さんは、性を通じてお互いを尊重する視点でDV問題を語った。

アンケートにも挙がった「男性優位の価値観」と性の問題のかかわりについて、2001年に山形市で高校生を対象に行った調査結果から指摘。性行為を体験した高校3年生は、男子が27・5%にとどまったのに対し、女子は44・7%に上った。進学や就職で忙しい男子に対し、女子が将来の見通しに甘さがあったと分析した。「人工中絶の割合が高い県は、男尊女卑が多く、女子の大学進学率が低い傾向がある。女子が自立し、男子がそれを認めるか、地域性が性の問題にも関連している」

渡會さんが性教育を始めた1999年には全国3位だった山形県の人工中絶率は、取り組みが浸透し地域が動くようになるにつれ、2006年には41位まで下がった。だが変化はそれだけにとどまらなかったという。「性に関する考え方が重くなった。自殺予防教育にもなった。男尊女卑が強かったけれど、話し合える男女関係が生まれた」

渡會さんは沖縄県内の状況についても述べた。「全国的には20歳未満の中絶率は低下してきているが、沖縄は上昇しそのまま維持している。10代よりも親の年齢、35～39歳の方が中絶率が上回っている。大人の世代、大学、専門学校生の教育も必要。自分を守る、大切にするということが大人としても身についていない可能性がある」

性教育に一番大事なのは「親の話し合う姿。男女が話し合って問題を解決する姿を見せること。言葉を交わす夫婦関係をつくること」。それはDV防止にも共通する。暴力が当たり前と思って育ったことで、暴力的なパートナーと出会いやすくなる可能性もあるという。「自尊心を持って、自分のために生きて、相手と共存していく、そういう家庭が増えていくことだ」

相手尊重する関係学ぶ

小禄中 ロールプレー交え

生徒に身近な例を挙げて暴力の種類を説明する名嘉知恵理さん＝小禄中学校

プロジェクトでは、県内の4高校と1中学校で講演会を持った。13日は小禄中学校（与那嶺実校長）で、1年生約280人が参加した。県更生保護会嘱託研究員の名嘉知恵理さんを講師に、体を傷つけるだけが暴力ではないことや、与える影響の大きさ、相手を大切にする人間関係づくりなどを学んだ。県内の中学校でデートDV啓発の講演が行われることは珍しいという。

名嘉さんは数人の生徒を交えたロールプレーイングを取り入れつつ、暴力の種類を具体的に説明。ものを投げつけて相手を脅し恐怖感を与えることや、ののしる、無視する、身体的なことをからかい否定する、性的行為を無理に行う―などを挙げた。その上で、暴力を振るう側の考えではなく、受けた人がどう思ったか、その立場で考えてほしいと強調した。「暴力は生きる力をなくさせる。心が傷ついたことで、飲酒や喫煙、援助交際に走るなど、自分自身への暴力にもなる」と影響の重大さも述べた。

いい人間関係に大事なのは「相手に思いやりを持ち、自分のことも相手のこともほめて大切にすること」。優しい言葉での会話、コミュニケーションで信頼関係をつくる大事さを話した。

国際ソロプチミスト沖縄

啓発活動・カード作製

県内の全中高校、大学、専門学校の生徒・学生らへの配布目的で製作された、デートDV啓発のカード（15万部）と、パンフレット（5000部）＝写真。

友達が被害に遭っていると気付いたとき何ができるか、という視点で、デートDVの知識や、対処のアドバイス、相談機関の連絡先などを掲載した。

作製した国際ソロプチミスト沖縄の新城会長は「生徒たちにも浸透しやすいように、友達に焦点を当てた。また、恋人同士だけでなく、友達や親子の間などにもいろいろな暴力がある。それを含めてさまざまな立場にあてはまるようにした」と話した。

デートDVチェックリスト

親密な関係になると、支配や暴力が見えなくなってしまいます。一つでも該当する項目があれば、デートDVではないか考えてみたり、自分の行動や態度を見直してみましょう。

デート相手は？

□あなたのことを「きたない」「バカ」など人をおとしめるいやな言い方で呼びますか。
□あなたが他の用事で会えなかったりすると、自分を最優先にしないと言ってふてくされたり、怒ったりしますか。
□あなたが誰と話すか、家族や友だちの誰といっしょにいるかなど、何でも知りたがって聞いてきますか。
□しょっちゅう携帯に電話してきて、あなたがどこで誰と話したり会ったりしているかチェックしますか。
□怒ったときに物にあたるなど、あなたが怖いと感じるような態度・行動をしますか。
□あなたへの怖い態度や行動をした後謝ることが多いですか。
□すごく優しいときと、すごくいじわるでいやな態度のときとが極端ですか。具体的には「おれ（私）には君（あなた）しかいない」とやさしく言ったかと思うと、「おまえ（あんた）は本当にばかだ」とばかにしたりするなど。
□ふたりがけんかしたとき、あなたが怒らせるようなことを言ったからだとか言ってあなたを責めますか。
□あなたが何かについて話そうとすると話をそらしたりして、あなたの話をちゃんと聞いてくれないことが多いですか。
□よく約束を破りますか。
□あなたの携帯をチェックして、男（女）友だちのメールやアドレスを消せと命令したり、消してしまったりしますか。
□「僕（私）のことが好きならいいだろう」とあなたが気が進まないことをさせますか。
□あなたの希望や考えを尊重しないで勝手に決めることが多いですか。

あなたは？

□デート相手が自分の意見に従わないといらいらしたり怒ったりしますか。
□相手が自分だけでなく、他の人とも仲良くしているのに嫉妬して責めたりしますか。
□相手がどんな人とどんな話をしているのか、とても気になって聞いたりしますか。
□相手に何をするか、誰と話すか、どこへ行くか、何を着るかなどについて指示し、それは相手のためだと思っていますか。
□相手に向かって「俺（私）とあいつ（ときに人、物、ことがらなど）のどっちが大事なんだ！」という言い方をしますか。
□腹を立てたとき、相手の目の前で物をたたいたり、壊したり、投げたりしますか。
□腹を立てたとき、相手の腕や肩をつかんだり、押したり、たたいたりしたことがありますか。
□あなた自身の問題や自分がいらいらしていることを、相手のせいだと責めたことがありますか。
□相手がしたことをとがめるとき、相手をたたいたりしますか。
□いつも相手をリードしなければと思っていますか。
□ふたりのことでも、相手の考えや希望を尊重しないで、自分ひとりで決めることが多いですか。
□相手は自分より劣っていると思いますか。
□付き合っている相手を「自分のもの」だと思っていますか。

（アウェア・デートDVチェックリストより）

相談窓口

■電話相談
県配偶者暴力相談支援センター　098(854)1172
県警ヤングテレフォンコーナー　098(862)0111
(0120)276556(フリーダイヤル)
県更生保護会DV加害者更生相談室　098(884)1018
県子ども人権110番　(0120)007110(フリーダイヤル)
チャイルドライン支援センター　(0120)997777（同）
■メール相談
県人権啓発ネットワーク協議会「子どもの人権SOS―eメール」携帯電話用　http://www.jinken.go.jp/soudan/mobile/001.html

くさぐさ

「育てる」という事

岡村　雄子

近所のご高齢の方が「もう畑仕事できないから」と主人に約30坪の畑を貸して下さった。主人は野菜作りに精を出し雨の少ない夏場にもゴーヤー、モーイ、ニガナ、ピーマン、ナスなどがわが家の食卓に上った。主人はいわく「野菜は愛情を注ぐだけ応えてくれる。裏切らない」と苦笑い。

子育ては「愛情を注ぐ」だけではうまくいかない。子の潜在意識（無意識）に親が正面から向き合い、「気づき」、きめこまかいコンタクトが必要となる。

そして子どもと「魂」と「魂」が触れ合うようなお付き合いをしなければ「心は育たない」という結論に到達した。娘が言った「お母さん、子どもは育てたいように育てる」のではなく「育てたように育つ」のだと。今になってその言葉が心に染みて、心が痛む。

娘よ、息子よ、いろいろなつらい経験をした最近。どうかよりスペシャルな、より強い精神力で将来大きな心の広い人間に育ってほしい。そして、今後「魂」と「魂」が触れ合うような親子関係を築いていきましょう。

（宜野湾市・54歳）

お知らせ

「くさぐさ」は400字以内。タイトルや氏名、住所、年齢、電話番号などは欄外に。あて先は、〒900―8678、沖縄タイムス学芸部くらし報道班、電話098(860)3553。ファクス098(860)3484。メール kurashi@okinawatimes.co.jp